



サクラヤンマの作り方 ～自然素材を活用して昆虫標本を作る～



発案：自然再生指導官 田中(2012.06.13 考案)

コンセプト

サクラヤンマというトンボは存在しません。架空の昆虫名です。ヤマザクラを使用する所から「ヤマ」「サクラ」を入れ替えて、「サクラ、ヤマ」→「サクラヤンマ」を命名しました。よって、使用する材料は基本的にヤマザクラを使用しています。

部屋の壁に飾ったり、机の上に置いても楽しくなります。こういった工作をきっかけに木材や自然の造形に関心を持ってもらうきっかけになれば幸いです。

なお、使用しているヤマザクラは、台風で折れて枯れた枝を利用しました。サクラではなく、似たような枯れ枝はいくらでもあるので色々お試しください。

自分だけの名前を付けるのも楽しいですよ。



(右の写真) 入れ物は木箱を使うと味が出ます。

説明は紙箱タイプでしています。

1 まずは材料と道具の説明

(1) トンボの本体

頭：ヤマザクラの種(径 5mm × 1)

胸：ヤマザクラの枝(径 5mm、長さ 10mm 程度 × 1)

しっぽ：ヤマザクラの枝先(径 1.5mm、長さ 27mm × 1)

ゴツゴツしていて枝先に新芽が付いているとそれらしくなります。

羽：シマトネリコの種(4枚))

(2) 固定用の部品

トンボ固定台：材種不特定(径 4mm、長さ 8mm × 1)

説明紙固定台：〃 (径 5mm、長さ 5mm × 1)

(3) 説明紙の部品及び記入内容

説明紙：ケント紙(20mm × 30mm 1枚)に手書き記入

止めピン：市販の裁縫用止めピン(長さ 18mm 1本)

(長い場合はニッパで適度の長さにカットする)

(説明紙 内容記入例)

サクラヤンマ(トンボ)
頭・胴・腹：ヤマザクラ
Prunus Jamasakura Sieb
羽：シマトネリコ
採取日：2012.06.13(試作第1号)
採取場所：箕面市

・・・ヤマザクラ学名

(4) 箱の部品（組み立て方は2（8）を参照）

箱：板目紙 底は 70mm × 90mm に周囲の枠 20mm で箱を作成
（箱飾りとしてきれいな包装紙 120mm × 140mm）

(5) 必要な道具

剪定ばさみ、カッターナイフ、キリ、ピンセット、木工ボンド、画鋏、鉛筆、ニッパ、爪楊枝

2 作成手順

(1) 胴体（胸）の作成

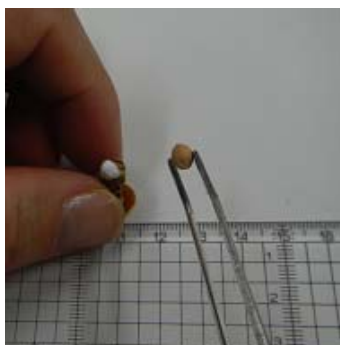
直径 5mm 程度の枝を選ぶ。頭方向は枝の二又部分などしっぽ側よりも少し太くなるようにすると、より本物感が出ます。

イメージできたら、羽を接着する二本の切れ込みを入れる。作業しやすいよう枝は長いまま作業するのが良い。切れ込みができたなら、しっぽ側の端を剪定ばさみで長さを調整する（中央写真、枝の下側がしっぽ方向）。次に、キリでしっぽを差し込む穴を開ける（この際、頭側はまだ切断しないで作業するのが安全）。最後に頭側を剪定ばさみで切って調整する。



(2) 胴体と顔を接着

(1) で作った胴体のしっぽを差し込む穴に画鋏をさして立てる。その上にサクラの種を木工ボンドで付ける。サクラの種は、山形に筋があり、片面の丸いところを顔の表面となるように使用し、作成後の向きを考えて顔の面が前方 60 度程度傾くように接着するようにする。この状態で乾燥させる（数時間おいておく必要がある）



(3) 顔を作成

(画鋸を刺したまま) 目になる部分を残して鉛筆で塗りつぶす。口になるところはなるべく雑に横に塗りつぶすと口らしくなる。

目になる部分に蛍光ペンや色鉛筆などで薄く色を付ける。塗らなくても大丈夫。

その目になる部分に木工ボンドで押しつけるように多めに盛りつける。表面張力で丸く盛り上がったように仕上がる。

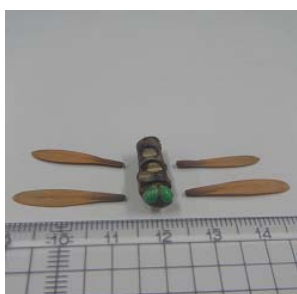
これも乾燥に時間を要する。(イベントで時間が無い時は最後にボンドで付けるようにすると良い)



(4) 羽を付ける

羽はシマトネリコの種を使う。シマトネリコの種は左右対称となるように大きさと形の類似したものを選択する。前羽を大きめにして、後ろ羽は少し小さめに選択すると雰囲気が出る。選択できたらシマトネリコの種の根元のとんがりをはさみで処理しておく。

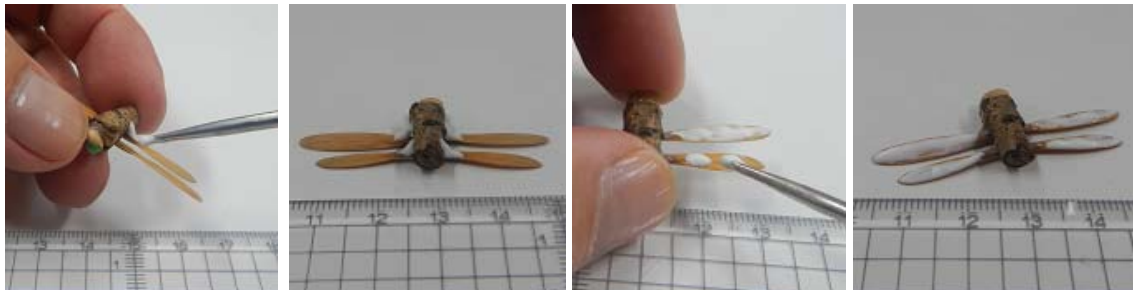
胴体の二本の切れ込みに木工ボンドを付けて、シマトネリコの種はピンセットで付ける(羽が小さいので手をつけるのは無理)。付けたら、指で上から少し圧迫して接着を確実にし、ピンセットで胴体をつかんで平らな面に裏返す。羽の向きや角度をピンセットを使って調整し、乾燥するのを待つ。



(5) 羽の補強

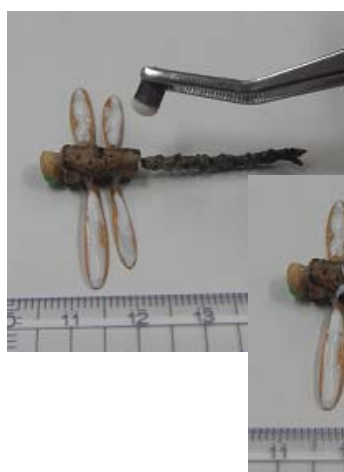
羽は、根元で接着されているだけなので取れやすい状態となっている。セスナ機の翼を支えている支柱を想像し、羽の裏側胴体寄りの所を木工ボンドを支えとなるよう盛りつける。この状態で乾燥させる。

羽は折れに弱いことから、羽の裏側に木工ボンドを薄く塗っておくと良い。



(6) しっぽの作成

枝先など、ボコボコした所など使ってしっぽにする。一方をカッターナイフでとがらせる。胴体にかけておいた穴にしっぽにとがった方を木工ボンドで付ける。



(7) 標本の支え

トンボ本体を箱の中に浮かして設置するための台として 4mm 程

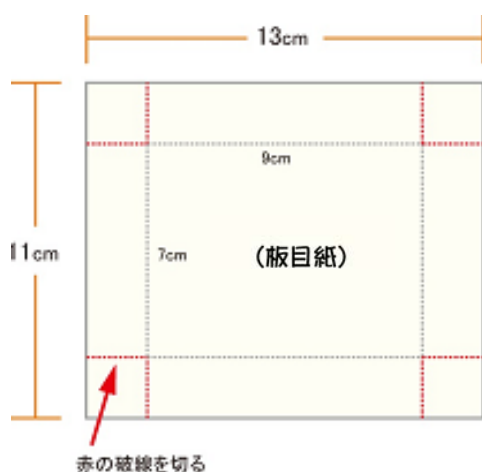
度の枝を円柱にカットして使用する。

トンボ胴体裏側のしっぽよりに木工ボンドで図のように固定する。胴体の接着部分はカッターで削っておくとより接着しやすい。

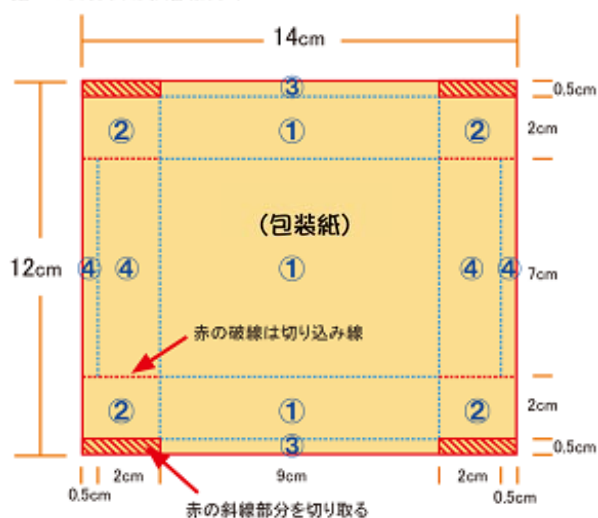
(8) 箱の作成

板目紙程度の厚紙（菓子箱を使うのも良い）を 7 cm × 9 cm の長方形、及び箱の壁部部となるように 2 cm の壁を切り取る。折り曲げ線は定規と千枚通しで付けておくと折り目に沿ってきれいに折れるようになる。

箱の設計図



箱の外貼り用紙設計図

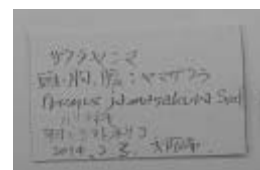


外貼用のきれいな包装紙の斜線部分をカッターで切取る。まず箱の底部分①を接着する。外貼り紙②の部分にのりを付けて、箱になるように貼り合わせる。③に、のりを付けて折り込むように箱の内側に貼付ける。外貼り紙④に、のりを付けて②を包み込むように貼って、更に箱に内側に折り込んで貼る。これで箱の完成。



(9) ネームプレートの作成

標本のネームプレートらしく、標本の名前、採取場所、採取年月日など小さな字で書く。紙の大きさは横3 cm、縦2 cm ぐらいとなるようにはさみでカットする。虫ピンで中央上側に一度穴を開け、裏側に木工ボンドで盛りつけておく。これでネームプレートが安定する。乾燥したら乾いた木工ボンドを貫くように虫ピンを一度開けた穴に差し込む。長い場合はニップで調整する。虫ピンが紙の箱には立たないので、枝にキリで穴を開けて長さ4 mm ぐらいの円柱状に切り取る。



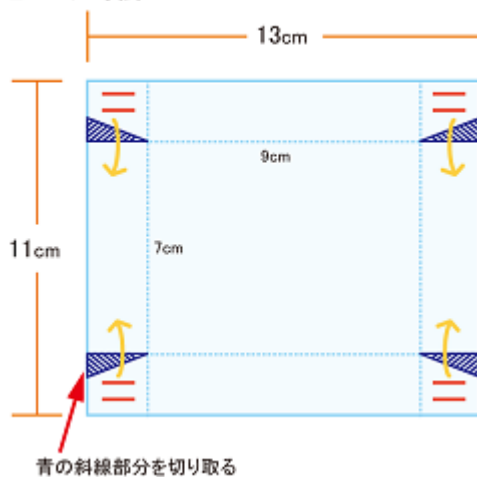
(10) 組み立て

箱の中央上にトンボ本体を固定する。ネーム台を標本の少し下に固定する。ネーム台の穴に大めに木工ボンドを盛りつけ、すぐにネームの虫ピンを差し込み、少し押さえてバランスを取る。(虫ピンは適当な長さにニッパで切ってください)



(11) ふたを作る

ビニールは、少し厚めのビニールシート(0.5mm 厚程度)を寸法どおり切り取りホチキス等で留める。出来たビニール製のふたを、箱にかぶせて出来上がり。



—— 完 成 ——

※トンボ以外にも工夫次第で、いろいろな昆虫標本ができます。

使っている部品も、羽の部分をはかの種で代用するなど、身近にある自然の素材を使ってチャレンジしてみてください。